



女子中高生のための工業都市 東予・夏の学校 2019



★新居浜高専で開催した体験型講演会の講師の方々から、
女子中高生の皆さんへのメッセージをまとめました★

株式会社三好鉄工所 総務部 次長 白川剛朗氏

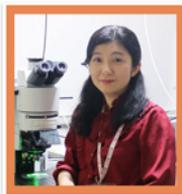
「男女共同参画時代の工学」



「鉄工所で女性が働くの?」と思われるかもしれませんが、弊社は『女性活躍推進』に力を入れて取り組んでおり、ここ4年間で7名もの女性技術者を新卒採用しています。彼女たちは、女性ならではの気づきや配慮を活かし、社内に新しい風を起こし、良い影響を与えてくれています。社会は常に変化しており、企業もそれに合わせて変化しなければ生き残れません。女子中高生の皆さんも、変化・進化の気持ちを大切にしていれば、きっと社会から求められる人材へと成長し、活躍の場がどんどん広がります!

徳島文理大学 香川薬学部 教授 山田麻紀氏

「羽ばたけ、未来型の薬剤師」



今回お招きいただき、薬剤師さんの舞台裏や将来展望も含めて紹介しました。この職業は誤解されがち（アンサング・シンデレラ参照）ですが、やった!とか、役に立てた!と達成感を味わえる職業として薬剤師になりたいと思う人が増えるといいなあ、と思います。薬学部はヒト（生物）も薬（分子）も実務（人）も広く勉強できて、家族や自分の健康（や美容）にも応用できる学部です。薬剤師業務の分化・高度化も進み、勉強した分、医師や患者から頼られる仕事ができるようになってきています。病院・薬局はもちろん、会社、大学、研究所（科捜研も!基礎研究もワクワク）、役所など、各自の個性・能力を生かせる職場で活躍できるよう、是非薬学部進学を考えてみてほしいです。

愛媛県警察本部 主任研究員 大野貴代氏



「科捜研の女」によるミニ現場検証体験

私は、愛媛県警察本部の刑事部にある科学捜査研究所というところで、研究員として働いています。科学捜査研究所は、通称「科捜研（かそうけん）」と呼ばれていて、ドラマの「科捜研の女」のモデルになっています。私が働いている実際の科捜研でも、事件現場に残された証拠物を、法医・化学・工学・心理・文書の各分野のエキスパートが科学的に分析を行って、犯人逮捕に貢献しています。以前は女性の少ない職場でしたが、今は人数も増え、女性が活躍する場面も増えています。どんな仕事についても、真剣に向き合えば、女性も必ず活躍できます。自分で自分にブレーキをかけないで、何事にも一生懸命、取り組んでみて下さい。

高知県立大学 健康栄養学部 講師 島田郁子氏



「食べることを支えます！栄養士の世界へようこそ」

管理栄養士養成課程で給食経営管理を担当しています。もともとは外国語大学でアラビア語を専攻後、派遣OLなどを転々としてきました。当時は自分の将来に悩んでいたと記憶しています。日本語教師をマレーシアで経験し、イスラム教をはじめ多様な宗教文化が多様な食生活を作ることを実感し、そのことがのちに進学した栄養士課程、修士課程の研究につながりました。イスラム教徒の暮らしを大学で学んだことが活用できたのはうれしかったです。短大では、実験など慣れない授業もありましたが、事前に何を明らかにするのかを調べ、段取りを考え、結果を分析することは、仕事をする上で大切な技術だと学びました。

理系、文系と得意・不得意である程度将来を考えるとと思いますが、2つを対立する概念と捉えず、どちらも真理を追究する姿勢は同じだと思ってもらえると、視野が広がるのではないかと思います。

